

砂糖の価格調整業務実績について (令和元砂糖年度)

特産調整部、特産業務部

はじめに

当機構では「砂糖及びでん粉の価格調整に関する法律」に基づき、輸入糖、異性化糖および輸入加糖調製品から調整金を徴収し、それらを財源として国内のさとうきび生産者やてん菜糖・甘しや糖の製造事業者に支援を行うことで内外価格差を調整し、国内の砂糖の安定的な供給の確保を図っている。

本稿では、令和元砂糖年度（令和元年10月1日～令和2年9月30日（以下「元SY」という））における砂糖の価格調整業務実績について取りまとめたので、報告する。

1. 調整金徴収業務

(1) 元SYの指標価格等

元SYの指標価格等は表1の通り。

(2) 砂糖の需要と供給

令和2年12月に農林水産省が公表した元SYの砂糖の需給見通し（実績）は、表2、3の通り。

表1 元SYの指標価格等

	29SY	30SY	元SY
砂糖調整基準価格（円/トン）	153,200	153,200	153,200
前年比（円）	±0	±0	±0
指定糖調整率（%）	37.00	37.00	37.00
前年比（ポイント）	±0	±0	±0

資料：平成29年9月29日農林水産省告示1500号、平成30年9月28日農林水産省告示2143号、令和元年9月30日農林水産省告示946号

注1：砂糖調整基準価格とは、輸入粗糖と国内産糖との価格調整の基準となる金額。

注2：指定糖調整率とは、粗糖の輸入者から徴収する調整金の負担水準を定める率。内外の粗糖のコスト格差に当該率を乗じて、調整金単価を算定。

表2 砂糖の需給見通し

(単位：千トン)

		平成30砂糖 年度 (実績)	令和元砂糖年度 (実績)					
			10-12月	1-3月	4-6月	7-9月		
消費量	分みつ糖	1,835	485.3	412.1	403.4	420.2	1,721	
	含みつ糖	36	6.9	12.8	8.7	7.0	35	
	合計	1,872	492.2	424.9	412.1	427.2	1,756	
供給量	国内産糖	分みつ糖	734	348.0	399.0	29.6	-	777
		含みつ糖	11	1.2	9.0	1.0	-	11
		小計	745	349.2	408.0	30.6	-	788
	輸入糖	分みつ糖	1,146	316.4	160.6	292.6	232.4	1,002
		含みつ糖	9	1.7	3.3	1.7	0.8	8
		小計	1,155	318.1	163.9	294.3	233.2	1,010
	合計	分みつ糖	1,880	664.4	559.6	322.2	232.4	1,779
		含みつ糖	20	2.9	12.3	2.7	0.8	19
		小計	1,900	667.3	571.9	324.9	233.2	1,797
期末在庫		332	501.5	630.4	565.7	373.9	374	

資料：農林水産省「令和2砂糖年度における砂糖及び異性化糖の需給見通し（第2回）」

注1：分みつ糖は精糖ベースの数量、含みつ糖は製品ベースの数量である。

注2：輸入糖の分みつ糖供給量は、機構売買数量である。

表3 砂糖及び異性化糖の需給総括表

砂糖 年度	総需要量		国内産糖生産（供給）量					輸入量	1人当たり 消費量	異性化糖 需要量
	千トン	対前年比 %	千トン	てん菜糖			甘しや糖 千トン			
				千トン	白糖 千トン	原料糖 千トン				
昭和50	2,877	5.6	449	224	224	-	213	2,351	25.6	-
60	2,655	0.5	870	574	574	-	285	1,779	21.9	617
平成7	2,435	▲1.5	842	650	491	159	183	1,606	19.4	733
13	2,277	▲0.7	840	663	471	192	170	1,405	17.9	761
14	2,296	0.8	875	721	469	252	143	1,480	18.0	768
15	2,237	▲2.6	904	743	463	280	153	1,364	17.5	791
16	2,229	▲0.4	912	784	477	307	121	1,272	17.5	796
17	2,165	▲2.9	839	699	452	247	132	1,326	17.0	790
18	2,181	0.7	800	643	451	192	148	1,346	17.1	801
19	2,197	0.7	861	683	454	229	169	1,380	17.2	824
20	2,136	▲2.8	878	683	451	232	186	1,222	16.7	784
21	2,099	▲1.7	861	683	433	250	168	1,263	16.5	803
22	2,095	▲0.2	655	490	424	66	156	1,431	16.4	806
23	2,039	▲2.7	674	564	446	118	104	1,375	16.0	812
24	2,026	▲0.6	691	561	416	145	122	1,338	15.9	827
25	2,006	▲1.0	687	551	410	140	129	1,284	15.8	812
26	1,971	▲1.7	737	607	410	197	122	1,220	15.5	792
27	1,983	0.6	813	676	423	253	129	1,235	15.6	818
28	1,957	▲1.3	688	505	400	105	173	1,214	15.4	832
29	1,921	▲1.8	794	656	432	224	128	1,111	15.2	832
30	1,895	▲1.4	745	614	401	213	120	1,183	15.0	824
令和元	1,779	▲6.1	788	650	415	235	127	1,030	14.1	785
2（見通し）	1,818	2.2	776	633	366	267	134	1,049	14.4	829

資料：農林水産省「令和2砂糖年度における砂糖及び異性化糖の需給見通し（第2回）」

注1：分みつ糖は精製糖ベースの数量、含みつ糖については製品ベースの数量、異性化糖は標準異性化糖（果糖55%ものの固形ベース）に換算した数量である。

注2：国内産糖生産量と輸入量の合計と総需要量の差は在庫変動である。

注3：国内産糖生産量の合計には含みつ糖生産量を含む。

注4：総需要量は、分みつ糖消費量、含みつ糖消費量および工業用などの合計である。

注5：輸入量は、通関実績の数値である。

(3) 国際相場などの動き

ニューヨーク粗糖先物相場（期近）は、平成28年10月に1ポンド当たり23セント台を記録した後、世界的な供給過剰感を背景に弱含みで推移し、令和元年9月後半には11セント台の水準となった（図1）。

元SYにおいては、10月から2月中旬にかけて、生産国であるブラジルやインド、タイなどで相次いで砂糖生産量の落ち込みが伝えられたことなどから、相場は上昇傾向で推移し、2月12日には15.78セントとなった。しかしその後は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）による世界的な景

気後退への懸念から3月には10セント台に急落した。

その後は、5月以降、原油価格の上昇によりエタノールの需要が高まることへの期待感から、相場は上昇し、8月にかけて12セント台となり、9月も12セント台を維持した。

(4) 粗糖、加糖調製品糖および異性化糖の平均輸入価格等

元SYにおける粗糖、加糖調製品糖および異性化糖の平均輸入価格等は表4～6の通り。

図1 ニューヨーク粗糖先物相場および為替相場（元SY）の月平均の推移

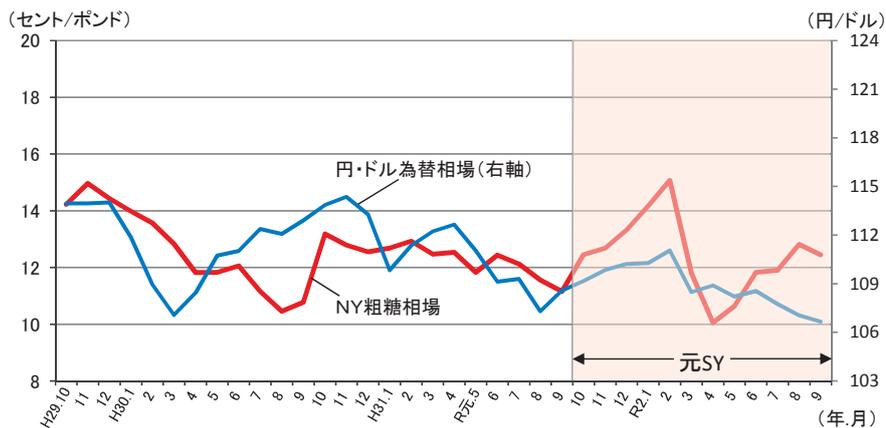


表4 粗糖の平均輸入価格等

	粗糖 平均輸入価格 (円/トン)	粗糖 (円/トン)				粗糖NY相場		為替 (円/ドル)	
		買入価格	売戻価格	軽減額	調整金単価	(セント/ポンド)	(ドル/トン)		
29SY	平成29年 10月～12月	47,020	47,020	86,307	-	39,287	13.91	306.66	111.93
	30年 1月～3月	48,600	48,600	87,302	-	38,702	14.77	317.97	113.92
	30年 4月～6月	45,400	45,400	85,286	-	39,886	13.64	300.74	110.01
	30年 7月～9月	40,290	40,290	82,067	-	41,777	11.93	263.02	109.80
30SY	30年 10月～12月29日	38,790	38,790	81,122	-	42,332	10.92	240.79	112.25
	30年 12月30日～31日	38,790	38,790	77,722	3,400	38,932	10.92	240.79	112.25
	31年 1月～3月	44,110	44,110	81,073	3,400	36,963	12.70	279.92	114.07
	31年 4月～令和元年6月	42,920	42,920	80,324	3,400	37,404	12.67	279.24	111.16
	元年 7月～9月	41,790	41,790	79,612	3,400	37,822	12.28	270.65	111.20
元SY	元年 10月～12月	39,300	39,300	78,043	3,400	38,743	11.68	257.58	108.36
	2年 1月～3月	42,070	42,070	79,788	3,400	37,718	12.67	279.22	109.57
	2年 4月～6月	47,040	47,040	82,919	3,400	35,879	13.89	306.28	109.81
	2年 7月～9月	41,100	41,100	79,177	3,400	38,077	10.77	237.53	108.82

表5 加糖調製品糖の平均輸入価格等

期 間		加糖調製品糖 平均輸入価格 (円/トン)	加糖調製品糖 標準価格 (円/トン)
30SY	平成30年 12月30日～31日	115,368	192,120
	31年 1月～3月	115,341	197,436
	31年 4月～令和元年6月	114,628	196,249
	元年 7月～9月	111,382	195,118
元SY	元年 10月～12月	106,966	192,810
	2年 1月～3月	111,744	195,579
	2年 4月～6月	115,265	200,545
	2年 7月～9月	112,059	194,609

表6 異性化糖の平均供給価格等

期 間		平均供給価格 (A) (円/トン)	異性化糖 標準価格 (B) (円/トン)	B-A
29SY	平成29年 10月～12月	121,241	114,523	▲ 6,718
	30年 1月～3月	122,548	115,398	▲ 7,150
	30年 4月～6月	123,271	113,616	▲ 9,655
	30年 7月～9月	125,528	110,819	▲ 14,709
30SY	30年 10月～12月	127,008	109,793	▲ 17,215
	31年 1月～3月	127,883	112,871	▲ 15,012
	31年 4月～令和元年6月	127,159	109,080	▲ 18,079
	元年 7月～9月	127,624	108,464	▲ 19,160
元SY	元年 10月～12月	127,991	112,936	▲ 15,055
	2年 1月～3月	128,099	114,620	▲ 13,479
	2年 4月～6月	127,786	117,601	▲ 10,185
	2年 7月～9月	122,656	113,681	▲ 8,975

注：異性化糖の平均供給価格が異性化糖標準価格を下回った場合に機構売買を行う。

(5) 売買実績

ア. 指定糖

元SYの輸入糖の売買数量は前SY比12.6%減の104万トンと近年まれに見る大幅な減少となった(表7)。これは、長年、砂糖の消費量が減少傾向にあることに加え、COVID-19による外出自粛や、インバウンド需要の蒸発などが需要を押し下げたこと、てん菜の豊作による国内産糖の供給増に伴い、指定糖の輸入量が減少したことが主な要因である。

イ. 輸入加糖調製品

輸入加糖調製品の売買は、平成31年1月から開

始された。元SYの売買数量は46万4千トンで、前SYより大幅に増加した(表7)。ただし、前SYは31年1月から9月までの9カ月間、元SYは1年間(12カ月間)と売買を行った期間が異なっているため、単純には比較できないことに注意したい。

ウ. 異性化糖

元SYの異性化糖の売買は、全期間を通じて異性化糖の平均供給価格(機構の買入価格)が異性化糖標準価格(機構の実質的な売戻価格)を上回ったことから、売買は行われなかった。

表7 指定糖、輸入加糖調製品の売買実績

SY	指定糖		輸入加糖調製品		売買差額合計 (百万円)
	売買数量 (千トン)	売買金額 (百万円)	売買数量 (千トン)	売買差額 (百万円)	
29	1,168	50,532	-	-	50,532
30	1,190	47,955	348	4,408	52,363
元	1,040	39,179	464	6,127	45,307

注：30SYの輸入加糖調製品は、平成31年1月～9月の実績。

2. 交付金交付業務など

(1) 甘味資源作物および国内産糖の生産動向

ア. てん菜・てん菜糖

元SYは、農林水産省の需給見通しによると、5月下旬の風害により一部圃場^{ほじょう}で生育に影響が見られたものの、6月以降の好天と10月の気温上昇により、例年以上に順調な生育となった。その結果、作付面積が前SYを下回る中でも単収が前SYを上回り、生産量は前SY比10.4%増の398万6千トン、

産糖量も同5.9%増の65万1千トンとなった(表8)。

イ. さとうきび・甘しゃ糖

元SYの鹿児島県および沖縄県のさとうきびは、農林水産省の需給見通しによると、前SY収穫期の長雨に伴う植え付けおよび管理作業の遅れや日照不足により、春植えや株出しの生育が遅れたものの、干ばつや台風被害が少なく、おおむね順調な生育となった。その結果、両県を合わせた生産量は前SY比1.8%減の117万4千トン、産糖量は同5.6%増の13万3千トンとなった(表9、表10)。

表8 てん菜・てん菜糖の生産動向

SY	作付面積 (ha)	単収 (トン/ha)	生産量 (千トン)	歩留り (%)	産糖量 (千トン)
29	58,139	67.10	3,901	16.83	657
30	57,209	63.11	3,611	17.03	615
元	56,344	70.74	3,986	16.34	651

資料：農林水産省「令和2砂糖年度における砂糖及び異性化糖の需給見通し(第2回)」

表9 鹿児島産さとうきび・甘しゃ糖の生産動向

SY	作付面積 (ha)	単収 (トン/ha)	生産量 (千トン)	分みつ糖 原料率 (%)	歩留り (%)	産糖量 (千トン)
29	9,877	53.46	528	98.84	10.73	56
30	9,436	47.97	453	98.79	11.43	51
元	9,168	54.28	498	98.86	12.18	60

資料：農林水産省「令和2砂糖年度における砂糖及び異性化糖の需給見通し(第2回)」

表10 沖縄産さとうきび・甘しゃ糖の生産動向

SY	作付面積 (ha)	単収 (トン/ha)	生産量 (千トン)	分みつ糖 原料率 (%)	歩留り (%)	産糖量 (千トン)
29	13,809	55.67	769	90.88	11.18	78
30	13,145	56.49	743	90.46	11.16	75
元	12,901	52.39	676	91.31	11.80	73

資料：農林水産省「令和2砂糖年度における砂糖及び異性化糖の需給見通し(第2回)」

(2) 交付金の交付状況など

ア. 甘味資源作物交付金（さとうきび）

さとうきびの収穫期はおおむね12月から翌年5月ごろまでであり、製造事業者への売渡しに応じて交付金を交付している。元SYは、交付決定数量が生産量の減少を受け前SY比0.8%減の110万9千トンとなる一方で、交付決定金額は、平均糖度の上昇や交付金単価の増額のため、同3.1%増の190億45百万円となった（表11）。

イ. 国内産糖交付金

(ア) てん菜糖の交付状況

てん菜糖の製造事業者の販売は年間を通じて行われ、これに応じて交付金を交付している。元SYは、

交付決定数量が前SY比2.8%減の58万4千トンとなった一方、交付金単価が引き上げられたため、交付決定金額は同5.8%増の149億58百万円となった（表12）。

(イ) 甘しや糖の交付状況

甘しや糖の製造事業者が製造した粗糖は、製糖後それほど期間を置かずに精製糖メーカーに販売されるため、操業時期に対応して交付金を交付している。

元SYは、さとうきびの生育が順調だったことから産糖量も増加し、交付決定数量は前SY比5.6%増の13万3千トンとなった。また、交付決定金額は、交付金単価の引き上げにより同6.6%増の88億76百万円となった（表13）。

表11 甘味資源作物交付金交付決定実績

SY	交付金単価 (円/トン)	数量 (千トン)	金額 (百万円)	(参考) 基準糖度帯
29	16,420	1,220	19,638	13.1度~14.3度
30	~12/29	1,118	18,468	13.1度~14.3度
	12/30~			
元	16,730	1,109	19,045	13.1度~14.3度

表12 てん菜糖交付金交付決定実績

SY	交付金単価 (円/トン)	数量 (千トン)	金額 (百万円)
29	17,564	614	10,950
30	~12/29	601	14,132
	12/30~		
元	25,675	584	14,958

表13 甘しや糖交付金交付決定実績

SY	交付金単価 (円/トン) ※	鹿児島県産		沖縄県産		合計	
		数量 (千トン)	金額 (百万円)	数量 (千トン)	金額 (百万円)	数量 (千トン)	金額 (百万円)
29	—	56	3,067	78	4,711	134	7,777
30	~12/29	51	3,148	75	5,175	126	8,323
	12/30~						
元	—	60	3,704	73	5,172	133	8,876

※交付金単価は島ごとに設定しているため割愛する。

(3) 国庫納付金納付業務（てん菜）

てん菜生産者への農業の担い手に対する経営安定のための交付金の交付に要する経費の財源に充てるため、農林水産大臣からの通知に従い、元SY（発生ベース）は、調整金収入などから177億25百万円を国庫に納付する予定である。

元SYは前SYと比較し調整金収入が71億円減少したため、納付額が22億74百万円減少する見込みである（表14）。

表14 国庫納付金納付実績

SY	国庫納付金額 (百万円)
29	20,904
30	19,999
元（見込み）	17,725

(4) 砂糖の価格調整業務における収支（見込み）

元SYの調整金収入については、指定糖は、COVID-19の影響により砂糖需要ひいては輸入糖供給量が前SYを下回ったことに加え、加糖調製品軽減額による調整金単価の減額、「環太平洋パートナーシップに関する包括的及び先進的な協定」（TPP11協定）発効による豪州の高糖度原料糖に対する調整金単価の減額などの影響により、前SYよ

り88億円減の392億円と大きく減少した（表15）。

一方、TPP11協定発効に伴い調整金徴収を開始した輸入加糖調製品については、61億円の収入があったものの、収入全体では前SYより66億円減の550億円（国費含む）となった。

支出については、交付金単価の引き上げにより支出が増加する一方、調整金収入の減少に伴う国庫納付額の減少により、全体としては前SYより3億円減の606億円と見込まれる。

これらの結果、元SYの調整金収支は、56億円の赤字（前SYは7億円の黒字）となり、21SY以来の大幅な単年度赤字が見込まれることとなった（図2）。

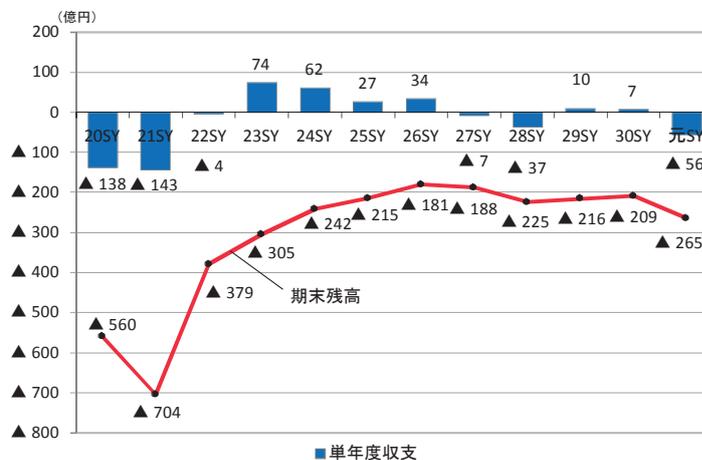
表15 元SY収支前年度比較

(単位：億円)

	29SY	30SY	元SY	対30SY 増減
収入	603	617	550	▲66
指定糖	505	480	392	▲88
加糖調製品	-	44	61	17
国費	97	93	97	4
支出	593	610	606	▲3
てん菜糖	110	141	150	8
甘しゅ糖	78	83	89	6
てん菜(国庫納付)	209	200	177	▲23
さとうきび	196	185	190	6
単年度収支	10	7	▲56	▲63

注：ラウンドの関係で増減が一致しない場合がある。

図2 砂糖の調整金収支の推移



注1：ラウンドの関係で単年度収支と期末残高が一致しない場合がある。

注2：22SYに糖価調整緊急対策交付金329億円を充当（単年度収支には含まない）。